第1回

仙台萩能

黒塚

粟谷 明生

清水

野村 萬斎

平成27年

10/31（土）

開場 12時30分

開演 13時30分

会場 電力ホール

番組

オープニングトーク

司会　粟谷 明生
ゲスト 脇方　森 常好
狂言方　野村 萬斎
囃子方 小鼓　大倉 源次郎
大鼓　亀井 広忠
笛　杉 信太朗
太鼓　大川 典良

～休憩 十五分～

狂言 清水

シテ［太郎冠者］野村 萬斎
アド［主］内藤 連

～休憩 十五分～

能 黒塚

鬼女 里女　粟谷 明生
祐慶　森 常好
従者　森 常太郎
能力　野村 萬斎
後見　狩野 了一　佐々木 多門
地謡　塩津 圭介　金子 敬一郎　粟谷 浩之　長島 茂　粟谷 充雄　粟谷 能夫　大島 輝久　内田 成信
大鼓　亀井 広忠
太鼓　大川 典良
小鼓　大倉 源次郎
笛　杉 信太朗

終了予定　十六時三十分

能［黒塚］

みちのく安達原で行き暮れた山伏祐慶の一行は野中の一軒家に宿を求める。家主の里女は一旦は断るが、たっての願いに負け山伏達を家の中に招き入れ糸車をまわしながら、人間のはかなさ、年老いる定め、世を厭う心などを語る。夜がふけて冷え込みも厳しくなる頃、女は裏山へ薪を取りに出かけるが、留守の間、閨を決して覗いてはならないと言い残す。祐慶の従者能力が閨を覗くと積み上げられた死骸の山、鬼の住み家だったかと山伏達に報告すると、能力の報告に驚いた一行は女の家から一目散に逃げる。鬼女と変じた女が約束を破ったことを恨み、食い殺そうと鉄杖を振り上げて襲いかかる。祐慶が五大明王の功力を頼み数珠を押しもんで祈り両者は激しくせめぎあうが、鬼女はついに祈り伏せられ消え失せる。

狂言［清水］

明日、今流行りの茶の湯の会を催そうとした主人は名水で有名な野中の清水の水を汲んでこいと太郎冠者に命令する。毎度毎度こんなことをさせられてはたまらないと太郎冠者は一計を案じ、鬼に食われそうになったと嘘を言って主人が大事にしている秘蔵の桶を置いて帰ってくる。主人は手桶が惜しいので、自分で清水に取りに行くことにしたが、太郎冠者は先回りして鬼の面をかぶって主人を脅かす。すっかり怖がる主人に太郎冠者をもっと大事にしろ、夏には蚊帳を吊れ、酒も十分に飲ませろ、と言いたい放題。逃げ帰って来た主人は太郎冠者に鬼は何と言ったかと尋ねると、答えた声が脅された鬼の声にそっくりなので、主人はいぶかしんでもう一度清水に行って確かめると言い出す。また先回りして鬼の面をかぶって主人を脅かす太郎冠者だったが…。

野村 萬斎（のむら まんさい）

1966年（昭和41年）生まれ。野村万作（人間国宝）の長男。祖父故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。
3歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。
国内外で狂言の普及を目指す一方、新しい演劇活動にも意欲的に取り組む。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、芸術祭優秀賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。著書に「MANSAI◎解体新書」（朝日新聞社）など。

粟谷 明生（あわや あきお）

1955年（昭和30年）生まれ。故粟谷菊生（人間国宝・芸術院会員）の長男。故十五世喜多実、父菊生、友枝昭世に師事する。3歳で初舞台『鞍馬天狗』花見、8歳で初シテ『猩々』以後、『猩々乱』『道成寺』『翁』『石橋』『望月』『定家』を披く。
粟谷能の会同人。ハゴロモ企画・平家物語のビデオ化で『月見の段』を能として収録。また「大和奏曲抄五体風姿DVD」み舞囃子『羽衣』に出演。演能及び能楽指導の傍ら、大阪大学・東北大学謡曲部への能楽指導にもあたる。重要無形文化財総合認定保持者。著書に「粟谷菊生能語り」（ぺりかん社）

萩能ワークショップ

能役者はどのようにしてシテをつとめようとしているのか？
面や装束はどのようにして選ばれるのか？
実際に能面や装束に見て触れることのできる体験講座です。

講師：粟谷明生 他
日時：平成27年9月5日（土）14時
会場：能-BOX（〒984-0015 仙台市若林区卸町2-15-6）

※参加ご希望の方は仙台萩能実行委員会事務局までお問い合わせください。

入場券受付開始　平成27年5月23日（土）

藤崎プレイガイド　TEL 022-261-5111（代表）
仙台三越プレイガイド　TEL 022-221-4031
チケットぴあ　TEL 0570-02-9999（Pコード：442-754）　HP pia.jp/t

入場料

S 席	7,000円	親子席（2席）	7,000円
A 席	4,000円	学生席	1,000円

〈主催〉仙台萩能実行委員会事務局　TEL 022-722-0178
〒980-0821 仙台市青葉区春日町9-3　FAX 022-224-9355
〈共催〉電力ホール　〈後援〉宮城県教育委員会　仙台市教育委員会　仙台市能楽振興協会　東北大学　河北新報社